『 こころ 』

誰の息吹も宿さない朝が
君を迎えに来ていたら

君は、夜の闇から
抜け出せたのだろうか？

命を照らし出す太陽の輝きが
君の元まで届いていたら

冷えきった君は
温もりを感じられただろうか？

願い事を叶える流れ星が
君の頭上を流れたら

君は願いをかけただろうか？

もっと早く君の悲しみに気づき
君を守ることができたなら

君はぼくの中から
消えることは、なかったの…？

ねぇ、君
今度はぼくが
君を大切に守っていくよ

夜空を見上げ
君の幸せを流れ星に願うよ！

だって、君は…
ぼくの心なんだから

もう君に無理をさせたりしない
ずっと、大切に愛していくよ

だから、ぼくの中にいて